

## 時代は変わった！大学研修も CHANGE！

長崎の医療を担う若い医師を育てるため、今、大学病院は研修医育成の新しいカタチを模索しています。これまでの医局や研修医を取り巻く環境を見直し、多様な人材を育てるべく新しいプログラムに取り組み始めました。

### 入局者の4割が長大外から

**河野氏** 2007年の初期研修のマッチングでは、長崎大学病院は34名と低迷しましたが、2009年は51名となり、全国42の国立大学病院の中で11位と健闘しました。これは、私たちが進める“CHANGE”のひとつの成果と思われます。今年度より初期研修の制度改革もありますが、大学病院の研修の利点は何かでしょうか？

病院長

河野 茂氏



Kohno Shigeru

こうの・しげる  
1950年生まれ。  
長崎大学医学部卒。  
専門は呼吸器内科学。  
2009年4月より  
長崎大学病院長

**前村氏** 大学病院での研修の特徴はいろんな専門科がそろっている点だと思います。最初に物の考え方、つまり診断や診療の考え方を大学病院で教えて、その後に関連病院でコモン・ディゼズをたくさんこなしてみる有機的なシステムになっているのが特徴だと思います。

**中山氏** 大学の研修の利点は、幅広い人脈をつくれることや仕事のやりやすさ、勉強のしやすさだと思います。僕は長崎市出身ですが、大学は県外でした

ので、病院にとけ込むことができるかどうか、不安がありました。実際、研修を始めると、先生方には長崎大学出身の研修医と同じようにご指導していただいて、この1年間、仕事はやりやすかったです。

**河野氏** 長崎は歴史的に異国の文化の窓口でしたので、外の文化や人に対してオープンですね。今年の後期研修生51人のうちの約4割が、外の大学から戻ってきた人たちです。中山先生のような方が増えているのが数字に表れているのかなと思いますね。

### スーパーローテートのよさ

**前村氏** 私が研修医のときは25年ぐらい前になりますが、内科は2年間ローテーションしてから入局を決める制度でした。総合的にいろんな内科をみて選べた点でよかったと思います。ストレート入局より、今のスーパーローテートのシステムはいいと思います。

**河野氏** 私の場合は36年前ですが、当時の給料が4万6000円。卒業してすぐに結婚して、生活が苦しい中、子どもが産まれたので、長崎市からミルクの配給を受けました（笑）。入局した第二内科には8ヵ月だけいて、後は第一内科や血液内科、放射線科、外の病院にも行きました。将来開業する予定でしたので、研修医のときぐらいは所属する医局にとらわれず幅広く回ろうと思っていましたね。当時の看護婦さんたちは強くて、怖かった（笑）。

**前村氏** 研修医のときにいきなり主治医を任されましたね。患者さんにとって、お前が一番責任あるんだと。重症のとき、2週間ずっと泊まり込んだこともありました。もちろん今の時代、それを求めることはできませんが、後で考えると、大変でしたが、責任感が芽生え、身につくものが多かったと思います。

**河野氏** 初めて診た患者さんの名前を覚えています

よ。転院された後もお見舞いに行きましたね。

### 多様な人材育成へ充実するプログラム

**前村氏** 学生には研修プログラムだけで評価してほしいのですが、住宅手当や時間外手当などのアメニティや待遇はどうしても気になるところでしょう。今年から住宅手当を支給したり、時間外手当を出したりと待遇面も充実しています。

#### 臨床教育・研修センター長

#### 前村 浩二氏



Maemura Kouji

まえむら・こうじ  
1961年生まれ。  
東京大学医学部卒。  
専門は循環器内科学。2009年4月より臨床教育・研修センター長

**河野氏** 今夏、研修医用に立派な学習室を準備して、快適に勉強できる環境づくりに取り組んでいます。大学に残って医者続けたいという若い医師向けには短期間の海外研修プログラムも用意しています。若い医師向けの英会話のクラスも始まっています。救急やジェネラルなこと、国際感覚を磨くなど、多様な人材を育成するために、大学病院ではさまざまなコースを備えています。

**中山氏** 長崎大学を選ぶ際に悩んだ点は、救命救急センターがない、当直がないことでした。研修医のときだからこそ、急変への対応を学ぶ必要があると思っていましたから。しかし今春から救命救急センターが開設され、しっかり研修を受けることができるので、よかったと思っています。

僕はアメリカの大学に1ヵ月ほど留学したことがあるのですが、交流で刺激を受けました。望んでいた制度が長崎大学で次々とつくられて楽しみです。

### 研修医時代に幅広い人間関係築く

**河野氏** 研修医に望むことは何ですか？

**前村氏** どうせこの科には長くいないからと、お客

#### 研修医

#### 中山 裕介氏



Nakayama Yusuke

なかやま・ゆうすけ  
1983年生まれ。  
愛知医科大学卒。  
長崎大学研修医2年目。将来は子どもに好かれる小児科医志望

さん感覚で回らないでほしいですね。やはり責任感を持って患者さんに接してもらいたと思います。

それから大学病院を回っている間、いろんな専門科の人と知り合って人脈を広げてほしい。いずれ県内外で勤務したときにいろんな相談ができます。

**河野氏** 確かに大学病院での研修時代に幅広い人間関係を構築できるメリットがありますね。以前、医局制度は極めて強権的だと思われていましたので、開業医の先生方もご子弟には大学病院のように不自由なところに行くよりも、好きなのところに行かぬと思うはずですが。でも今は入局しても本人の希望を柔軟に聞いているでしょう？

**前村氏** 積極的にそうしたいと思っていますね。

**河野氏** 若い医師が外の病院で勉強したいと言ったときに、県内の大きな関連病院などのようにいい研修ができる病院としっかり連携を持って、若い人の育成に取り組むべきだと思っています。患者さんのためにも、ベストな診療方法や場所などを相談して選ぶことができるようになるはずですが。

**前村氏** 大学病院でできた医者同士のコネクションは診療する上で大切になってきますね。

**中山氏** 長い目でみて、いつか開業するとき、もし自分が病気になったときなどに医局のサポートがあると、助かると思います。

**河野氏** 大学病院では夢と高い志を持って、チャレンジする多様な人材を求めています。それらのニーズにこたえられる度量の広い病院でありたいですね。開業医の先生のご子弟には是非、長崎大学病院で学んで長崎に貢献いただきたいと思っています。